特定非営利活動法人

TICO

はじめに

TICO代表　吉田修

TICO会員の皆様やご寄付をくださった方々はじめ、昨年度も様々なサポートをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。昨年はザンビアでの活動、カンボジアとの医療スタッフ交流事業、国内活動、震災に対する緊急支援を実施することができました。心より御礼申し上げます。

「安全な妊娠・出産支援事業」と平行して、お産を待つ家、看護師の家、学校の建設に追われた1年でしたが、何とかやり遂げることができそうです。しかし、安全な水の確保や環境保全型農業の普及に関しては、大きな成果を上げるまでには至っていません。

アジア、アフリカでは経済成長が見られ、ザンビアでも高級車がたくさん走るようになり、首都ルサカでは毎日大渋滞が起きています。その反面、都市部の貧困層や農村は取り残され、格差は拡大しているように思えます。これは日本でも同様です。

中長期的に見ると、世界は化石燃料や鉱物資源・水・食糧の枯渇時代を迎えると予想されています。日本にいるとなかなか実感できませんが、生きることが次第に困難になる時代がやってくるかも知れません。

安全保障上、地域で水源を守り、環境に配慮した農業を大切にし、エネルギーを自給できる方策を、地域住民が主体となって築き上げることが重要です。地域分散型の社会、地域で循環する社会は、それぞれのコミュニティーが個性を発揮し、他の地域と共生しながら、かつ、誇りと尊厳を持って自立する社会ではないでしょうか。これにより都市と地方は補完し合い、格差は縮小に向かうと思われます。

さて、日本では震災・原発事故により、自然エネルギー、地域で作るエネルギーへの転換の時代がやっと始まりました。地域が元気な新しい日本を再生し、世界に広めていきたいものです。

特定非営利活動法人　TICO(ティコ)

Tokushima International COoperation

2011年度　年次報告書

TICO(ティコ)はアジア・アフリカの
地域住民の自立を支援します

日本においては、人々が地球規模で考え行動
するきっかけや場を創ります

ザンビア事業報告

アフリカ南部の内陸部に位置するザンビア共和国。主な活動地であるチボンボ郡は、 首都ルサカから北東へ約100キロメートル行った先にあります。英語で水、農業、医療・健康、教育の頭文字をとって名付けられたWAHE(ワヘ)プロジェクトを活動の軸に、持続可能な干ばつに強い村を目指した、総合的な農村開発、自立支援を行っています。

［ザンビア共和国地図］

1. 干ばつに強い村づくり WAHE（Water, Agriculture, Health, Education）

中央州チボンボ郡チペンビ、モンボシ

⑴事業の背景・目的

＜総合的なアプローチ「WAHE（ワヘ）」＞

2002年、ザンビアは大規模な干ばつに襲われ、住民は飢餓に苦しみ、来年蒔くために取っておかねばならない種まで食べ尽くしていました。TICOは南部州において飢餓対策緊急援助を行いましたが、飢餓が引き起こされる根本には、単一の原因ではなく複雑な要因が絡み合って存在する、という結論に至りました。そこから、WAHE（水：Water，農業：Agriculture，医療・健康：Health，教育：Education）の4つの分野を中心に、干ばつに強い村を作っていこう、農村の暮らしを総合的に良くしていこうというコンセプトのもと、WAHE（ワヘ）プロジェクトは開始されました。

チペンビ地域においては、特にコミュニティー自身が自立的に生計を営んで行けるよう、小規模の資金支援をすることでビジネスを立ち上げたり（農村開発ローン）、農業活動の充実を図ったりしています。また、より環境にやさしい農法の導入を目指し、チペンビ農業大学と連携し、近隣農家へ技術支援を実施しています。

⑵活動内容

1）農村開発ローン支援
　▷対象：チペンビ地区周辺住民グループ
2）環境保全型農業推進
　▷対象：チペンビ地区周辺住民
3）水源調査
　▷対象：モンボシ周辺地区

⑶本年度の成果

＜事業評価、調査を実施＞

農村開発ローンは、養鶏のためにローンを1グループ締結したのみで新規案件の調査は休止し、過去の事業のインパクト調査を実施することで、これまでの事業評価を行いました。

▲養鶏を始めたグループメンバー。

環境保全型農業（コンサベーション・ファーミング）の推進は、化学肥料を減らし堆肥による土づくりを取り入れるなど、より環境に配慮した農業の形へと2010年から移行しています。環境保全型農業実践の場として50m×50m規模のデモンストレーション農場を開墾し、メイズ（とうもろこし）、豆類、レイプ（西洋油菜）等5種を栽培し収穫することができました。また農業展示会などへの視察を通じ、現地農業関係者同士の情報・意見交換の場を提供しました。

水源調査はモンボシ周辺の地区でどういった水源を利用しているのか、課題は何かを探りました。

⑷課題と2012年度の見通し

＜事業終了＞

農村開発ローン事業は2003年から開始し、23事業16グループの支援を実施してきました。 ビジネスの知識を得ることができたと多くのグループから声があがりましたが、過去の事業の運営方法から事業の妥当性や持続性を評価したところ、一旦事業を終了することになりました。

環境保全型農業推進事業に関しても、デモンストレーション農場がサルの被害にあったため農場の移転を検討しましたが、関係者と協議を重ねた結果、事業を休止することになりました。チペンビ農業大学やその他の農業系団体とは今後も他の事業地との連携を視野に入れつつ、ザンビアの風土に適した農法の情報収集を継続して行なうことで、次の事業形成に繋げたいと思います。

水源調査ではほとんどの住民が浅井戸を使っており、安全な水が確保できていないことが明らかになりました。しかしながら調査後、モンボシ周辺地区に他団体から井戸の掘削支援が入ったため、TICOでの支援は見合わせることになりました。随時調査を進め、必要な支援を検討していきます。

＜2011年度の主な成果＞

・農村開発ローン事業評価調査実施

2003年から実施してきたローン事業の見直しを図るため、評価調査を実施しました。

・小学校2棟完工！

地域住民で造るコミュニティースクール（小学校）の建設が終了し、校舎が2棟完成しました。

（公益社団法人セカンドハンド助成事業）

・看護師の家完工！

お産を待つ家（産前簡易宿泊所）と並行して看護師の家を建設していましたが、無事完成しました。政府から看護師の派遣が待望されます。

【ザンビア事業従事者】
桜井睦子（事務所長）
吉田修（プロジェクトマネージャー）
田淵幸一郎（保健医療専門家）
山元香代子（保健医療専門家）
酒井浩子（保健医療専門家）
黒田晶子（業務調整員）
滝川麻衣（業務調整員）
モーリス・マーフィー（建築専門家）

2. 農村部教育機会向上事業 WAHE（Water, Agriculture, Health, Education）

【公益社団法人セカンドハンド助成事業】
中央州チボンボ郡モンボシ

⑴事業の背景・目的

＜教室や学校の設備を支援＞

干ばつに強い村の未来を担うこどもたちへの教育は大変重要です。しかし、公立学校の数は限られており、定員オーバーで学校に通えない生徒が数多く見受けられます。初等教育を受ける機会を与えられず、一日の大半を水汲みや家族のための仕事に費やすことも珍しくありません。そこで、地域の人は地元にコミュニティースクール（地域住民が自主運営する学校）を立ち上げますが、教室、トイレ、黒板、机・椅子など学校の設備は不備・不足しており、教師の数も不十分であるところが多いのが現状です。農村地域の教育現場の改善を目指し、学校の整備やハード面を支援しています。

⑵活動内容と成果

＜コミュニティースクール完工＞

2010年度より公益社団法人セカンドハンドから資金協力を受け、モンボシ地区ンコンジェ村にてコミュニティースクールの建設を始めました。地元の大工、レンガ工を採用することで雇用を創出し、住民が主体となって小学校の建設を行うことで時間はかかりましたが、ついに校舎2棟が完成しました。新学期開始に先立ち、森山小学校及び木屋平中学校からのご寄付で教科書88冊、教師用指導書20冊を購入、寄贈しました。

▲新しい校舎で教科書を手にする生徒たち。

＜トイレの修繕支援＞

また、2007～2008年にかけて校舎の修繕を支援したマサカコミュニティースクールのトイレ3棟の壁が、老朽化により雨漏りが懸念されていたため、修繕を行いました。（自己資金対応）

▲修繕したトイレ。

⑶課題と2012年度の見通し

＜トイレと教師の家建設竣工＞

ンコンジェ・コミュニティースクールの校舎完成に続き、トイレと教師の家の建設を進めていきます。教師の家が完成次第、郡教育局より正規の資格を持った教員の派遣を要請します。また、卒業試験がンコンジェコミュニティースクールで実施できるよう、申請を支援します。

▲完成した2棟の校舎。

3. 農村部保健医療改善事業
～チボンボ郡地域住民が支える安全な妊娠／出産の支援事業～
WAHE（Water, Agriculture, Health, Education）

【JICA草の根技術協力事業】

中央州チボンボ郡モンボシ

⑴事業の背景・目的

＜安全な妊娠／出産ができる環境を＞

チボンボ郡モンボシは、首都から約100キロメートル北に位置する農村地域です。保健医療の施設も物資も人材も慢性的に不足している現状にあって、住民が自らの健康を守るしくみをつくり、これが機能するための最低限の施設・物資・人材を確保するべく、 2007年8月より3年間プライマリーヘルスケア事業を展開しました。

2010年10月からは、さらに課題の多い妊産婦保健に焦点を当て、モンボシ地域の妊娠出産をめぐる状況が改善し、安全なお産が可能となる環境を整えるべく、母子保健事業を実施しています。

本事業は独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業として、2010年10月～2013年9月までの3年間の予定で実施されます。

⑵活動内容

＜住民自らが妊産婦保健に取り組む＞

地域単位で妊産婦保健に関わる各種保健活動が実施できるよう体制を整え、住民自らが妊産婦保健の問題点を把握し、解決できる力を養います。

1）安全なお産支援グループ（SMAG）養成
　▷対象： モンボシと周辺9地区
2）栄養・妊娠・出産についての健康教育
　▷対象：モンボシと周辺9地区の妊娠適齢期の女性
3）妊産婦をめぐる保健問題の改善
　▷対象：モンボシと周辺9地区の母親や妊産婦
4）産前簡易宿泊所の建設【自己資金対応】
　▷対象：モンボシと周辺9地区の母親や妊産婦

⑶本年度の成果

＜活発な妊産婦保健教育活動＞

昨年養成された、伝統的産婆や住民ボランティアで成る安全なお産支援グループ（Safe Motherhood Action Group、以下SMAG）の中で、モニタリング・評価委員会を設置し、定期的に活動の調査を自分たちで実施しています。啓発劇・歌を通して健康教育を実施するための研修も修了し、各地域で啓発活動が展開されています。また、地域住民はもちろん、地域で中心的役割を担う村長や宗教リーダー、学校教師などへの啓発にも取り組みました。

このような活動を支えるSMAGのメンバーたちは、無償のボランティアです。活動にかかる経費を自分たちで捻出し、SMAGの活動が円滑に進められるよう、養鶏及び会計に関する研修を実施し、養鶏・大豆栽培のためのローンを貸付けました。

▲鶏舎もでき、養鶏開始。

＜建築着工、完工＞

施設で分娩したいという希望はあっても、陣痛発来後に自宅からヘルスポストまでの移動手段の確保が困難なため自宅出産に変更することや、移動に時間がかかりすぎ途中の道端で出産してしまうことが多々見うけられます。そこで、妊婦が陣痛発来前から待機できる産前簡易宿泊所の建設を進めていますが、ヘルスポストには看護師が1名しか駐在していません。いくら住民ボランティアの助けがあるとはいえ、産前簡易宿泊所の開所には増員が必要であり、新しい看護師を迎えるためには職員宿舎の建築が急務とあって、まず職員宿舎に着工、2月末に完工しました。産前簡易宿泊所の完成ももうまもなくです。また、自転車救急車を9つの地域に配置することで、村からヘルスポストへのアクセス改善を図りました。

▲完成したスタッフのための家。

▲投入した自転車救急車。

⑷課題と2012年度の見通し

養成されたサブメンバーを含むSMAGメンバーの活動が地域に根づき確固たるものとなるよう体制を整えるとともに、メンバーの知識を維持、向上していくための更なるリフレッシュ研修を開催します。加えてSMAGメンバーが妊産婦死亡例の調査を実施するためのフォーマットの見直し、研修も進めて行きます。また、各学校に若年妊娠予防のための性教育活動グループを設置していきます。

陣痛発来前から滞在し、出産に備えられるよう産前簡易宿泊所の早期稼働が望まれます。郡保健局に看護師の派遣を引き続き要請するとともに、産前簡易宿泊所の完工を急ぎます。

▲啓発劇を披露するSMAGのメンバーたち。

4. ンゴンベ貧困地区民生改善事業

ルサカ市ンゴンベ地区

⑴事業の背景・目的

1997年7月よりルサカ市に多数存在するコンパウンド(低所得者層居住区、貧困地区)の1つであるンゴンベ地区において、こどもたちの栄養改善を目的として事業を実施してきました。しかしこの目的を達成する為には貧困を含む社会的要因が大きく絡んでいることから、2000年よりこどもの栄養状態改善及び地域社会の特に女性の能力開発を目的とした民生改善プロジェクトへと発展し、現在に至ります。

⑵活動内容と成果

＜学校登録申請支援＞

ンゴンベ地区の女性住民へ、洋裁や栄養教室を通した技術移転を実施してきました。それに伴い、教室に通う母親たちが働きに出ている間、こどもを預かってくれる場所がほしいとの要望を受け開始されたコミュニティースクール（地域住民が自主運営する学校）は、今では保育所から小学校7年生までを受け入れるほどに大きく成長しました。

本年度は小学校７年生（最終学年）の卒業試験が本校にて実施できるよう教育局、教育省へ働きかけ、学校登録申請の手続きを支援しました。

＜配車支援＞

また、彼らが独自に実施している洋裁教室の作品販売など、所得創出活動（以下IGA）、文化祭等の学校行事の実施や卒業試験会場までの送迎、必要な物資の運搬作業を行うためのトラック配車等の不定期な支援も、引き続き実施ました。

その他、コミュニティースクールの運営委員会のメンバーとして、活動内容や運営方針に係る協議に参加し、間接的な支援も継続して行なっています。

⑶課題と2012年度の見通し

次年度も資金面や配車の支援、運営委員会への参加、教育省への学校登録申請にかかる支援を実施していきます。

また、より自立的な活動ができるよう、IGA活動への技術的支援及び他事業との連携橋渡しも進めていきます。前前年度実施した栄養教室出張講座は好評を得たため、次年度にはモンボシ地区でも栄養教室出前講座を再度開催し、若い女性や母親へ栄養や健康に関する知識の普及を拡大させていきます。

▲校内にあるお店にはIGAのためのバックや布が置かれている。

5. 辺地巡回診療事業

中央州チボンボ郡ルアノ

⑴事業の背景・目的

＜保健医療改善事業をサポート＞

2007年から3年間取り組んだチボンボ郡農村地域プライマリーヘルスケア事業により、ヘルスポスト（診療所）の建設や住民保健ボランティア（コミュニティーヘルスワーカ、以下CHW）などの養成が実施されました。その結果、ヘルスポスト周辺の人々は以前と比べ、比較的容易に医療サービスを受けられるようになりました。しかし、道路などの整備が遅れているために、辺地（遠隔地）に住む人々は数時間から1日かけて、徒歩であるいは牛車などでヘルスポストやヘルスセンター（病院）に通っています。そのような地域を含めて、ヘルスポストやヘルスセンターからスタッフが出張医療サービスを実施していますが、道路事情が悪く中止になることが頻繁にあります。医療機関で受診できない地域に住む人々、特に5歳未満の乳幼児や妊産婦が定期的に基本的な医療サービスを受けられることを目的として、車両によるモバイルクリニック（巡回診療）を開始し、そのシステムを確立していきます。

⑵活動内容と成果

＜事業開始＞

保健省から事業開始の承認が4月に下りたため、実施場所の選定や派遣される人員等に関して保健局を中心に協議した結果、10月から月2回チボンボ郡ルアノ地区にてモバイルクリニックを開始しました。郡病院からクリニカルオフィサー（准医師）1名、助産師1名、ヘルスセンターからHIV/AIDSカウンセラー1名が派遣され、診察、妊産婦健診、家族計画などを行なっています。これまでに延べ12回実施し、1,000人が登録、平均して約120名が受診するようになりました。そのうちの約半分は5歳未満の小児で、妊産婦健診と家族計画にはそれぞれ毎回平均で10名ほどが受診しています。

▲待合は人であふれている。

▲診察の様子。

⑶課題と2012年度の見通し

＜予防啓発、健康教育を住民へ＞

約2,000人をカバーするルアノ地区にはCHWがわずか2名しかおらず、住民の疾病予防や衛生知識があまり普及していません。マラリアの患者が非常に多く、医薬品や検査キットの購入費もかなり負担となっています。今後はマラリアや下痢症など感染症予防の健康教育を実施し、住民の啓発に努めると同時に、必要な薬剤などを保健局から支給できるよう働きかけていきます。なお、担当の保健医療専門家が今後は独立して支援を進めていくため、TICOは少し離れたところから事業を見守っていきます。

カンボジア事業報告

東南アジアに位置するカンボジア王国。ザンビアで成果を上げてきた救急事業の経験を生かし、首都プノンペン市西部地区を中心に2008年より救急医療支援活動を行っています。

首都プノンペン市

［東南アジア地域地図］

【カンボジア事業従事者】
渡部豪（保健医療専門家）
事務局

＜2011年度の主な成果＞
- **医療者の人事交流**：医療者の日本招へいを2回、専門家のカンボジア派遣を2回実施
- **継続した啓発活動**：自発的に救急対応に関する啓発活動が展開

1. プノンペン市医療従事者救急対応力向上事業

【公益社団法人セカンドハンド共同事業】

プノンペン市西部地区

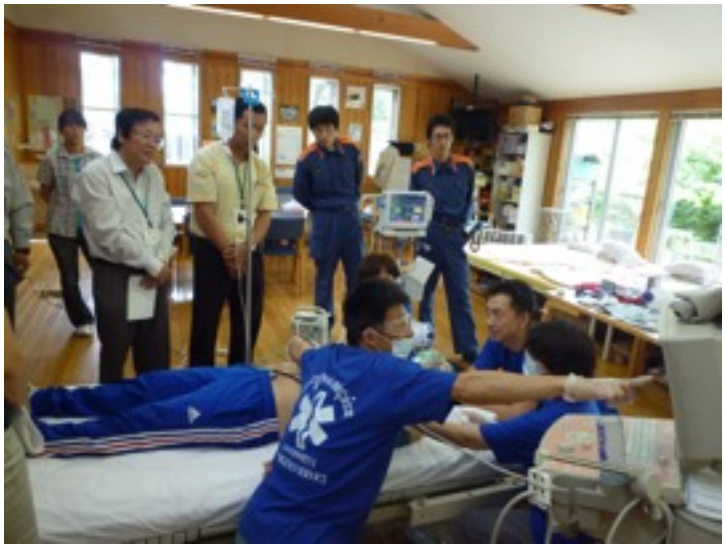
⑴事業の背景・目的

＜医療従事者の技術向上のために＞

低所得者層の人々も適正な価格で公正に救急車を利用できるようにするため、2008年より公益社団法人セカンドハンド（本部・香川県）と共同で、公立病院であるポチェントン病院とプノンペン市市民病院において、救急対応に関する技術向上支援を行っています。

⑵活動内容と成果

救急隊の訓練に加え、公的医療機関における医療従事者の救急対応能力向上のための研修を実施しています。4月には日本から専門家を派遣し、心電図の読み方や気道確保に関するトレーニングを、9月には実際の症例について協議を行いました。また、5月と９月にカンボジアより医療従事者それぞれ2名を日本へ招へいし、香川県立中央病院や高松消防局、美馬市のホウエツ病院、吉野川市の西消防署、さくら診療所などの協力を得て、救急対応に関する実践的な研修を実施しました。専門家の派遣と日本への招へいを組み合わせることで、より指導的な立場になる人材が育ってきています。



▲5月に実施した招へい研修の様子。消防隊員も応援に。

⑶課題と2012年度の見通し

＜技術能力維持・向上のための研修＞

引き続き、救急医療の中心となっている医療従事者を日本に招いて研修を行うともに、現地にも日本人専門家を短期間派遣して研修を実施していきます。

2. プノンペン西部地区住民啓発事業

全国／プノンペン市西部地区

⑴事業の背景・目的

カンボジアでは「119」に連絡すると全国どこでも無料で救急車がかけつけるといった制度が整備されていません。また、医療機関においても救急時の対応に関する適切な知識が乏しい状況で、一般住民においても「応急処置」に関する知識がなく、誤った処置により症状を悪化させるなどの状況が生じていました。

事故が発生した時に、適切かつ最低限の応急処置を受け、適正に転院・搬送が行われることを目標に、2008年1月から3年間、低所得者でも利用できる救急搬送体制の構築、救急対応ガイドラインの策定、公的医療機関における医療従事者のトレーニング及び地域住民の救急医療についての啓発活動を実施してきました。2011年からは主に啓発活動を支援しています。

▲警察官を対象とした救急対応の啓発ワークショップの様子。

⑵活動内容と成果、今後の見通し

公的医療機関が主催する地域住民対象の応急手当や救急対応に関する啓発活動を支援しています。地域住民、警察を対象に活動が展開されており、プノンペン西部地区のうち、1つの区域においては自発的なワークショップの開催が見られました。今後も医療従事者救急対応力向上事業と合わせて啓発活動を支援します。

国内活動報告

ザンビアやカンボジアでの国際協力活動を通して得た経験を、徳島をはじめとする日本の市民と分かち合い、日本人の生活を改めて振り返る機会を提供します。そして、共に持続可能な社会を構築することを目指して、国内でも様々な活動を行っています。

＜2011年度の主な成果＞
・**徳島県から事業を受託**：国際保健協力と地域医療を組み合わせた研修医向けのプログラムを提案しました。
・**地域とのつながり強化！**：ゆず畑の手入れや地域のバザーに積極的に参加。地球人カレッジの講師も地元の方にお願いし、地域とのつながりを広げ、深めました。

1. 国際保健協力と県内地域医療を担う医療人材受入プログラム開発

【徳島県委託事業】
徳島県、ザンビア共和国

⑴事業の背景・目的

国際保健協力に関心をもつ医療従事者は，国内の地域医療にも強い関心がありますが、金銭的な負担や生活の不安定さなど、国際保健協力に本格的に取り組むには多くのハードルがあります。一方、徳島県の地域医療を担う医療人材の不足は深刻であり、その確保は喫緊の課題となっています。

そこで国際保健協力を志す医療人材が徳島県に集まり、地域医療に従事しつつ海外でも活動できる仕組みを構築すべく、研修医を対象とした医療人材受入プログラムの開発を行いました。

本事業は徳島県の委託を受け、2011年8月から2012年3月の期間で実施しました。

⑵活動内容

国際保健協力と地域医療を組み合わせた研修医向けのプログラムを考案するため、ザンビアと日本で調査を実施しました。

1）ザンビアでの研修受入先調査
　▷対象：ルサカ州、中央州、南部州
2）日本でのニーズ調査、研修内容考案
　▷対象：全国

▲教会などの支援を受けている、ザンビアの私立のホスピス。

▲ザンビア大学病院

⑶成果と今後の見通し

まず受入可能な海外研修先や受入にかかる手続き、現地生活情報等に関してTICOの事業地であるザンビア共和国において調査を実施しました。ザンビア大学の医学部には学生の研修制度があること、病院やNGOの活動地視察が可能な受入機関があることが明らかになり、国際保健協力の場があることを確認できました。

次に国内では、研修に関するニーズ、徳島県内の病院への受入体制などを調査しましたが、医師、研修医、医学生を対象としたアンケートでは、海外研修のニーズがあることはもちろん、国内での研修内容が充実していることや、海外研修中の身分保障を求める声が結果としてあがりました。

調査結果をもとに研修プログラムを考案し、最終的には報告会と県への直接提言の場として医療者や医学生、一般の方と意見交換会を開催しました。

本事業は研修プログラムの可能性を探ることで一旦終了となりますが、保健医療分野での国際協力と地域医療、ともに関心のある医療者への体制が整備されるきっかけとなり、今後徳島県を中心に構築されていくことを期待します。

▲意見交換会の様子。

2. 地球人カレッジ

「地球規模で考えながら地域から活動していく」きっかけになる機会を一地方である徳島で提供するべく、毎月1回「地球人カレッジ」と称したセミナーを開催しています。1997年から続くTICOの原点ともいえる国内活動で、2009年9月からインターネットで中継を開始しています。

【2011年度地球人カレッジ実績】

日時	テーマ	講師
4/23	自然の恵みを体験してみよう～竹道具と昼食作り、農作業を通して～	小野裕次さん（さくら診療所さくら農園有機農業実践家）
5/9	TICOの活動紹介in東京	福士庸二（TICO事務局長）
5/14	NGO在外事務所の運営とは～あなたも事務所長になれる！～	吉田純（TICOザンビア事務所長）、国際医学生連盟
6/6	モヨ・チルドレン・センターの今	松下照美さん（モヨ・チルドレン・センター主宰）
6/18	のびやかに自分になる～田んぼと畑と幼稚園と小学校TOECフリースクールの取り組みと目指しているもの～	伊勢達郎さん（自然スクールTOEC設立者）
7/17	有機大豆でお豆腐作り体験	今関英子さん（百姓天国山川農園）
7/23	新人調整員のザンビア奮闘記	黒田晶子（TICOザンビア業務調整員）
8/27	～お母さんの声を現場から～ザンビア妊産婦保健プロジェクト活動報告	酒井浩子（TICOザンビア保健医療専門家）
9/10	ドイツ・フライブルグの環境政策とエネルギー自給の村を訪ねて	吉田ます子さん（徳島小水力利用推進協議会　運営委員）
10/8	植物の恵みを生活に生かそう～薬草せっけんとバスフィズ、廃油でアロマキャンドル作り～	馬場節子さん（染織作家、NGO　A&A代表）
11/19	持続発展教育（ESD）ってどんなもん？	近森憲助さん（徳鳴門教育大学大学院学校教育研究科国際教育コース　教授）
12/19	誤解から生まれる国際理解	平野キャサリンさん（公益社団法人セカンドハンド　理事長）
2/18	アフリカが私の人生を変えた～3年間のアフリカ生活が教えてくれたこと～	滝川麻衣（TICOザンビア業務調整員）
3/18	震災支援　今私たちにできることと～宮城県石巻市、震災支援活動の現場から～	菅野芳春さん（協力隊OV有志による震災支援の会　代表）
3/20	地域医療の新しい可能性～徳島県で国際協力と地域医療を両立する～	桜井睦子（TICOザンビア事務所長）、伏見繭子（TICO事務局員）

▲7月（左）と10月（右）の地球人カレッジ。体験型で開催。
▼3月4日の国際理解教育シンポジウムの様子。

3. 講師派遣事業（出前講座）

＜連続での講座へも、講師を派遣＞

教育機関、市民団体等へTICOスタッフを講師として派遣し、講義やワークショップを通して地球市民教育を行っています。今年は2校から連続講座の依頼がありました。

【2011年度講師派遣実績】

日時	依頼先	実施内容
4/20	徳島大学	国際協力論
5/12	川島中学校	ザンビアの現状と日本国憲法から読み解く日本の役割、チャレンジ・アフリカ
5/13	川島中学校	ザンビアの現状と日本国憲法から読み解く日本の役割、チャレンジ・アフリカ
5/21	鳴門教育大学	国際理解教育入門公開講座
5/23	香川大学	国際協力論
5/25	宮崎大学	地域医療学①②
6/1	徳島大学	国際協力論
6/2	川島中学校	ザンビアの現状と日本国憲法から読み解く日本の役割、チャレンジ・アフリカ
6/11	土曜倶楽部	アフリカ、ガーナ、遠い国？
6/12	滋賀医科大学（国際保健・地域医療研究会TukTuk）	国際保健・地域医療入門～TICO:ザンビアへ送る命の種～
6/19	JICA四国	徳島県出身JICAボランティアOVによる東日本大震災・被災地での支援活動報告
6/23	山瀬公民館	東日本大震災　緊急支援報告
6/25	jaih-s（日本国際保健医療学会学生部）	jaih-s勉強会～ザンビアの現状から学ぼう！より良い国際保健とは？～
7/13	高知南高校	TICOの紹介～アフリカとのつながり～
7/15	鴨島東中学校	ザンビアの現状と日本国憲法から読み解く日本の役割、チャレンジ・アフリカ
9/11	社団法人　徳島県労働者福祉協議会	基調講演「地球人として生きる」～支え合い　元気な徳島　つなごう未来へ～
9/14	高知南高校	チャレンジ・アフリカ
9/17	鴨島第一中学校	TICOの紹介～アフリカとのつながり～
10/7	北灘中学校	東日本大震災とザンビア支援
11/17	日和佐中学校	ザンビアの現状とHIV/AIDSについて
11/24	四街道徳洲会病院	地域医療を担いつつNGOでできること
12/1	徳島大学	わが国の国際医療援助活動の動向
12/2	川田西小学校	アフリカの今とわたしたちの未来
12/7	高知南高校	世界の社会構造がいかに不均衡か
12/8	徳島大学	わが国の国際医療援助活動の動向
12/16	鳴門工業高校	アフリカの現状と人類の未来
12/17	鳴門教育大学	国際教育オープンフォーラム「被災児童生徒への国際支援～今　必要とされることは～」
2/3	高知南高校	宇宙船地球号
2/17	徳島大学	医学概論
2/21	森山小学校	みんなの支援はザンビアでどのように役に立っているだろう？
3/3	jaih-s（日本国際保健医療学会学生部）ユースフォーラム	いま求められている国際保健とは？～MDGsを問い直す
3/4	国際理解教育シンポジウム	パネルトーク「絆～東日本大震災から1年～」
3/10	四国青年NGO HOPE	CHANCE～一期一会～
3/14	高知南高校	まとめ

4. TICO合宿(青少年育成事業)

吉野川市山川町にある環境に配慮した宿泊施設で、集中的に国際協力や持続可能な循環型社会について学ぶ機会を提供しています。個人や一般の方にも気軽に参加していただけるよう、公募で合宿を年2回開催しています。

【2011年度合宿受け入れ実績】

日付	参加団体	日付	参加団体
5/14～15	国際医学生連盟	10/8～10	第4回公募型合宿
7/16～18	第3回公募型合宿	12/10～11	国際医学生連盟
8/26～28	兵庫県立大学国際看護サークルNITW	1/27～29	日本国際保健医療学会学生部会
9/23～25	TICOユース		

▲合宿の様子。早朝は有機野菜畑での農作業体験。

5. 情報発信、イベント参加等

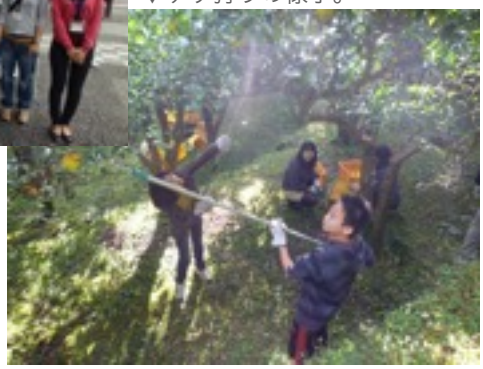
地域とのつながり・関わりが広がり深まるよう、地域のイベントに積極的に参加しています。毎年恒例の「わらびの会」主催によるゆず狩りに加え、ゆず畑の手入れにも参加しています。

【2011年度イベント参加実績】

日付	イベント名	場所	内容
4/17	にこにこ市	ロッタハウス	バザー出店
6/19	ゆず畑手入れ	木屋平	草刈り、枝の剪定
7/3	にこにこ市	東林院	バザー出店
8/21	にこにこ市	ロッタハウス	バザー出店
9/4	にこにこ市	東林院	バザー出店
10/23	アフリカン・コンサート	アイパル香川	バザー出店
10/23	ゆず畑手入れ	木屋平	草刈り
11/6	第７回とくしまNPO・ボランティアフェア	新町川ボードウォーク	バザー出店
11/13	ゆず刈り	木屋平	
12/18	にこにこ市	ロッタハウス	バザー出店
2/4～5	ワン・ワールド・フェスティバル	大阪国際交流センター	活動紹介 バザー出店
2/26	フリーデンスフェスト	鳴門市ドイツ館	パネル展示 バザー出店

◀バザー出展の様子。TICOユースもお手伝い。

▼ゆず狩りの様子。



JICA前理事長の緒方貞子氏がTICOを訪問され、徳島新聞にその様子や緒方氏からの寄稿文が掲載されました。月刊誌「徳島人」には創刊号から取材に来ていただき、スタッフやカンボジアからの医療者受入の様子が記事になりました。

また、この他に地球人カレッジやイベントのお知らせが、徳島新聞やタウン誌「月刊あわわ」に数回掲載されています。

【2011年度メディア掲載実績】

日付	媒体	取材対象
4/6	ＪＩＣＡ四国ホームページ「人」明日へのストーリー	吉田純
4/16	徳島新聞（朝刊）	被災地支援
5/20	徳島新聞（朝刊）	緒方貞子氏訪問
6/2～3	愛ネット情報	渡部豪 カンボジア人医師受入
6/17	徳島新聞（朝刊）	緒方貞子氏寄稿文
7/15	「徳島人」創刊号	TICO国内
7/31	「えっとぶり」23号	橋本浩一
8/15	「徳島人」	黒田晶子
9/9	JICA広報誌「日本も元気にする国際協力事業」	TICOの活動紹介
9/12	地球環境基金　英語版パンフレット	環境保全型農業推進事業
9/22	徳島新聞（朝刊）	吉田修
10/15	「徳島人」	酒井浩子
11/15	「徳島人」	渡部豪 カンボジア人医師受入
1/1	Dr. Holiday（新春号）	吉田修
3/31	国際交流　よしのがわ	庄田多江

▲緒方氏訪問の様子。

＜人材育成＞

昨年度はJICA地球ひろば主催の「組織力アップ！NGO人材育成研修」等の研修に参加し、組織運営の見直し改善に努めました。本年度は国内人材の育成だけでなく、在外スタッフが一時帰国中に能力を強化できるよう、研修参加をサポートしました。

【2011年度受講講座】

日付	セミナー名
5/10	組織力アップ！NGO人材育成研修
7/28～29	国際協力担当者のためのPCMを活用したプロジェクト運営基礎セミナー（計画・立案コース）
8/4～5	国際協力担当者のためのPCMを活用したプロジェクト運営基礎セミナー（モニタリング・評価コース）
8/29～9/2	JICA能力強化研修　母子保健コース
10/22	NPO法改正・制度説明会

会計報告

収支の状況
～2011年4月1日から2012年3月31日まで～
（単位：円）

収支の部

会費・入会金収入	2,069,000
事業収入	22,536,097
助成金収入	705,000
寄付金収入	10,528,585
雑収入	1,050,426
収入合計(A)	36,889,108
前期繰越金	13,264,017
総計(B)	50,153,125

支出の部

海外事業	
ザンビア事業	31,476,774
カンボジア事業	260,578
国内事業	
会報・刊行物の発行	223,912
その他広報活動費	28,780
開発教育に関する事業	79,877
緊急雇用創出事業	6,602,955
東日本大震災支援	2,929,036
徳島大学「国際協力論」	271,420
管理費	4,281,386
その他	18,340
支出合計(C)	46,173,058

当期収支差額(A)-(C)	-9,283,950
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,980,067

貸借対照表
～2012年3月31日現在～（単位：円）

資産の部

流動資金	
現金預金	4,251,232
流動資産合計	4,251,232
固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	4,251,232

負債の部

流動負債	
預り金	271,148
流動負債合計	271,148
固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	271,148

正味財産の部

当期賞味財産増減額	-9,283,950
正味財産合計	3,980,067
負債及び賞味財産合計	4,251,215

＊財務諸表はホームページにて公開しています。

役職員名簿

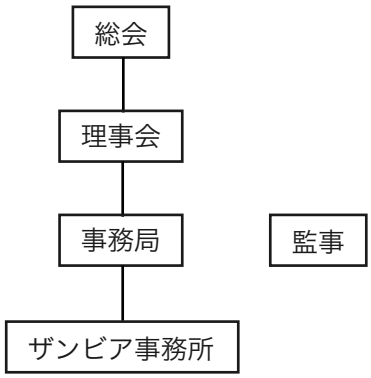
【代表理事】
吉田修

【理事】
福士庸二
渡部豪
饗場恭子
近森憲助
田淵幸一郎

【監事】
萩森健治

【事務局】
福士庸二（事務局長）
瀬戸口千佳（事務局員）
庄田多江（事務局員）
伏見繭子（事務局員）

組織図



団体概要

団 体 名	特定非営利活動法人TICO（ティコ）
設　　立	1993年11月23日
団体資格	特定非営利活動法人 （2004年9月６日認証）
所 在 地	〒779–3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4
連 絡 先	Tel/Fax : 0883-42-2271 Mail : info@tico.or.jp Web : www.tico.or.jp
会 員 数	正 会 員　11名 賛助会員個人　160名 賛助会員学生　47名 賛助会員団体　20名　計238名

2012年3月31日現在

特定非営利活動法人　TICO(ティコ)事務局

2012年6月発行